

青森県埋蔵文化財調査報告書 第642集

鉢森平(6)遺跡

—国道394号榎林バイパス道路改築事業に伴う遺跡発掘調査報告—

2024年3月

青森県教育委員会

序

青森県埋蔵文化財調査センターでは、令和4年度に国道394号榎林バイパス道路改築事業予定地内に所在する鉢森平(6)遺跡の発掘調査を実施しました。

鉢森平(6)遺跡は、七戸町に所在し、町内には数多くの埋蔵文化財包蔵地が遺されています。その中には、世界遺産に登録された史跡二ツ森貝塚をはじめ縄文時代の重要な遺跡が少なからず含まれています。

今回の調査の結果、縄文時代の溝状土坑などの遺構を検出し、縄文時代後期の土器や石器が出土しました。このことから、本遺跡が縄文時代の狩猟場であることが分かりました。

本報告書は、令和4年度の調査成果をまとめたものです。この成果が今後、埋蔵文化財の保護と研究等に広く活用され、また、地域の歴史を理解する一助となることを期待します。

最後に、日頃から埋蔵文化財の保護と活用に対して御理解をいただいている青森県土木整備部道路課に厚くお礼申し上げるとともに、発掘調査の実施と報告書の作成にあたり御指導、御協力をいただきました関係各位に対し、心より感謝いたします。

令和6年3月

青森県埋蔵文化財調査センター
所長 渡部 泰雄

例言

- 1 本報告書は、青森県県土整備部道路課による国道394号榎林バイパス道路改築事業に伴い、青森県埋蔵文化財調査センターが令和4年度に発掘調査を実施した、七戸町鉢森平(6)遺跡の発掘調査報告書である。発掘対象面積は5,000㎡、発掘面積は4,309㎡である。
- 2 鉢森平(6)遺跡の所在地は上北郡七戸町字鉢森平地内、青森県遺跡番号は402155である。
- 3 発掘調査および整理・報告書作成の経費は発掘調査を委託した青森県県土整備部道路課が負担した。
- 4 発掘調査から整理・報告書作成までの期間は、以下のとおりである。

発掘調査期間	令和4年5月10日～令和4年7月29日
整理・報告書作成期間	令和5年4月1日～令和6年3月31日
- 5 本報告書は、青森県埋蔵文化財調査センターが編集し、青森県教育委員会が作成した。執筆と編集は報告書記載の編集者が担当し、執筆者名は文末に記した。また、依頼原稿の執筆者名は文頭に記した。発掘調査成果の一部は、発掘調査報告会等において公表しているが、これらと本書の内容が異なる場合は、本書が優先する。
- 6 発掘調査から整理・報告書作成にあたり、以下の業務については依頼もしくは委託により実施した。

地形と地質について	根本直樹(国立大学法人弘前大学大学院理工学研究科講師)
石質鑑定	根本直樹(国立大学法人弘前大学大学院理工学研究科講師)
基準点測量	北建測量設計(有)
遺構測量	東北測量株式会社
空中写真撮影・モザイク写真	有限会社無限
- 7 本書に掲載した地形図(図2)は、国土地理院発行の「電子地形図25000」『七戸』『三沢』『乙供』『甲地』を合成・加工して使用した。
- 8 測量原点の座標値は、世界測地系(測地成果2011)に基づく平面直角座標第X系による。挿入図中の方位は、すべて座標北を示している。
- 9 遺構は、その種類を示すアルファベットの略号に検出順位を示す算用数字を組み合わせ、略称とした。使用した略号は以下のとおりである。

S V	: 溝状土坑
S K	: 土坑

遺物は取り上げ順に種別ごとの略号と番号を付した。遺物と火山灰の略号は以下のとおりである。

P：土器類、S：石器類、To-a：十和田a火山灰、B-Tm：白頭山－苫小牧火山灰

- 10 遺構内の基本土層にはローマ数字、遺構内の堆積土層には算用数字を使用した。各土層の色調表記等は、『新版標準土色帖 2014 年度版』（小山正忠・竹原秀雄）を基に記録した。
- 11 各挿図中の遺構実測図の縮尺は 1/60 を基本とし、一部の遺構配置図などは適宜縮尺を変更し、挿図中にスケールを示した。土層断面図等には、水準点を基にした海拔標高を付している。
- 12 各遺構の規模に関する計測値は、原則として現存値を記載した。調査区外に延びているもの、各遺構・攪乱によって壊されているものは（ ）を付した。
- 13 遺物実測図の個別番号は、図版ごとに番号を付した。遺物実測図の縮尺は、原則として土器 1/3、石器 1/2 とし、挿図中にスケールを示した。
- 14 各遺物写真には遺物実測図と共通の図番号を付した。縮尺は土器 1/3、石器 1/2 である。
- 15 発掘調査および整理・報告書作成における出土品、実測図、写真等は、現在、青森県埋蔵文化財調査センターが保管している。
- 16 整理、報告書作成に際して、下記の機関から御協力、御指導を得た（敬称略）。
七戸町教育委員会

目次

序	第2節 鉢森平(6)遺跡周辺の 地形・地質について	8
例言		
目次	第3章 検出遺構と出土遺物	15
図版目次	第1節 溝状土坑	15
写真目次	第2節 土坑	18
表目次	第3節 遺構外出土遺物	18
	第4章 総括	24
第1章 調査と整理の概要	引用・参考文献	25
第1節 調査に至る経過	遺構一覧表	26
第2節 調査の方法	遺物観察表	26
第3節 調査及び整理の体制と経過	写真図版	27
第2章 遺跡の環境	報告書抄録	33
第1節 遺跡の位置と周辺の遺跡		

図版目次

図1 路線図・調査範囲図	4	図7 基本土層1(上)及び2(下)での層序の 概要(左)とその写真(右)	12
図2 遺跡位置・周辺の遺跡	7	図8 遺構配置図	14
図3 鉢森平(6)遺跡周辺の地形分類図	8	図9~12 溝状土坑(1)~(4)	19~22
図4 鉢森平(6)遺跡の地形の詳細	9	図13 溝状土坑(5)・土坑・出土遺物	23
図5 鉢森平(6)遺跡周辺の水系図	10		
図6 鉢森平(6)遺跡周辺の地質図	11		

写真目次

写真1 遺跡全景	27	写真3~5 溝状土坑(1)~(3)	29~31
写真2 調査区全景・基本土層・出土遺物	28	写真6 溝状土坑(4)・土坑・調査状況	32

表目次

表1 鉢森平(6)遺跡周辺の遺跡一覧	6	表4 縄文土器観察表	26
表2 溝状土坑(SV)一覧	26	表5 石器観察表	26
表3 土坑(SK)一覧	26		

第1章 調査と整理の概要

第1節 調査に至る経過

国道394号榎林バイパス道路改築事業予定地内に所在する埋蔵文化財の取扱いについては、平成25年度から青森県県土整備部道路課（以下、県土整備部道路課）及び上北地域県民局地域整備部と青森県教育庁文化財保護課（以下、文化財保護課）が継続的に協議を行っており、当該事業予定地内に所在する遺跡については、買取等の環境が整い次第、試掘調査を実施することとしていた。

令和3年10月に、試掘環境が整った当該事業予定地内を文化財保護課が試掘調査を実施したところ、事業予定地内で遺構・遺物が確認されたことから、その区域は周知の埋蔵文化財包蔵地（鉢森平(6)遺跡）として新規登録され、工事着手前の本発掘調査が必要と判断された。

この結果を受け、再度、県土整備部道路課と文化財保護課との間で協議を行ったが遺跡の現状保存が困難であることから、工事優先箇所や他調査事業との調整を経て、同じく新規登録された鉢森平(7)遺跡とともに発掘調査を令和4年度に実施する計画とし、青森県埋蔵文化財調査センターが調査を担当することとなった。

鉢森平(6)遺跡については、令和4年3月3日付け上県局整備第1971号で上北地域県民局長から文化財保護法第94条第1項の土木工事等のための発掘に関する通知がなされ、青森県教育委員会教育長が同年3月15日付け青教文第1526号で工事着手前の本発掘調査（記録保存調査）の実施を通知している。（神）

第2節 調査の方法

1 発掘調査の方法

[測量基準点・水準点の設置・グリッド設定] 遺構測量に用いた測量基準点及び水準原点の設置は外部委託し、調査区内に4級基準点を4点を打設した。基準点からの測量に支障が生じた場合、調査区内の任意点に座標を移動し使用した。グリッドは世界測地系による国土座標値を基準として4×4mに設定した。原点は平面直角座標第X系のX=83600、Y=31900とした。各グリッドは南から北方向にローマ数字（Ⅰ～Ⅱ）とアルファベット（A～Y）を、西から東方向に算用数字を1から付し、南西隅の組み合わせで呼称した。

[基本土層] 基本土層は任意の地点で確認し、層序上位からローマ数字（Ⅰ層～Ⅶ層）を付けて呼称し、細分がある場合は小文字のアルファベットを付した。

[表土等の掘削] 表土等の掘削は、試掘調査の成果を踏まえ、状況を確認しながら重機を使用し、省力化を図るように努めた。表土から遺構確認面までの土層から出土した遺物は、層位毎に取り上げた。

[遺構の調査] 遺構の検出は主に基本土層のⅢ層またはⅣ層で行った。検出遺構には、原則として確認順に種類別の遺構番号を付して精査した。堆積土層観察用のセクションベルトは、遺構の形態や大きさ等に応じて基本的に2分割で設定した。遺構内の堆積土層には、算用数字を付けて、基本土層と区別した。遺構の平面図、堆積土層断面図、遺構配置図の作成は委託で実施し、(株)CUBIC製「遺

構実測支援システム」とトータルステーションを用いて作成した。遺構内の出土遺物は、遺構単位で層位ごとに取り上げた。

[写真撮影]35mmモノクローム、35mmカラーリバーサルの各フィルム及びデジタルカメラを併用し、遺構の検出状況、土層の堆積状況、発掘後の全景、発掘作業状況等について記録した。デジタルカメラは約2,620万画素のものを使用した。

2 整理・報告書作成作業の方法

発掘調査では縄文時代の溝状土坑14基、古代以降の土坑1基を検出した。検出した遺構の配置図は図8に示し、遺構一覧は表2・3に示した。遺物は縄文時代の土器2点、石器1点が出土した。

[図面類の整理] トータルステーションによる測量で作成した遺構の平面図と堆積土層断面図の図面調整を行った。また、遺構一覧等を作成して、遺構の位置や規模、所見等を整理した。

[写真類の整理] 35mmモノクロームフィルム・35mmリバーサルフィルムは撮影順に整理してネガアルバムに収納した。デジタルカメラのデータは発掘作業状況、遺構毎の検出・精査状況等に整理してタイトルを付け、ハードディスク・ブルーレイディスク等に保存した。

[遺物の洗浄・注記] 遺物の注記は、調査年度、遺跡名、出土区・遺構名、層位等を略記したが、剥片等の直接注記できないものは、カードと共に収納するポリ袋に注記した。

[報告書掲載遺物の選別] 出土したすべての遺物を掲載した。

[遺物の観察・図化] 十分に観察した上で、各遺物の特徴を適切に分かり易く表現するように図化したほか、観察表等を作成した。

[遺物の写真撮影] 実測図等では表現しがたい質感・雰囲気・製作技法・文様表現等を伝えられるように留意した。

[遺構・遺物のトレース・版下作成] 遺構・遺物の実測図やその他挿図のトレースは、(株)CUBIC製「トレースくん」(遺構実測支援システム)とAdobe社製「Illustrator」を用いた。拓本の切り抜きはAdobe社製「Photoshop」、図版の版下作成はAdobe社製「Illustrator」・「InDesign」、遺物写真の切り抜きはAdobe社製「Photoshop」を用いた。

[遺構の検討・分類・整理] 遺構毎に種類・構造的特徴・出土遺物等に関するデータを整理し、構築時期や同時性・性格等について検討を加えた。

[遺物の検討・分類・整理] 遺物を時代・時期・種類毎に整理し、出土状況・特徴を検討した。

第3節 調査及び整理の体制と経過

令和4年度の調査は5月10日から7月29日までの期間で行った。整理・報告書作成作業は遺物の水洗い・注記作業、写真類や遺構データの整理作業など調査年度内に先行して行ったものもあるが、主として令和5年4月1日から令和6年3月31日までの期間で行った。

1 発掘調査

(1) 調査体制

調査主体 青森県埋蔵文化財調査センター

所 長	和田 和男 (現 青森県総合学校教育センター 所長)
総務GM	油布 恵美 (現 青森県立図書館 奉仕課長)
調査第二GM	齋藤 岳 (現 青森県立郷土館 学芸課副課長)
総括主幹	浅田 智晴
文化財保護主幹	笹森 一郎
文化財保護主幹	秦 光次郎
文化財保護主査	藤原 有希
文化財保護主査	藤田 祐
文化財保護主事	長谷川 大旗

専門的事項に関する指導・助言

調 査 員	関根 達人 国立大学法人弘前大学人文社会科学部教授 (考古学)
調 査 員	上條 信彦 国立大学法人弘前大学人文社会科学部教授 (考古学)
調 査 員	根本 直樹 国立大学法人弘前大学大学院理工学研究科講師 (地質学)

(2) 調査経過

- 4月 事業者・文化財保護課と打ち合わせを行い、発掘調査区や発掘作業の進め方などについて確認した。また、委託により測量基準点を4点新設した。
- 5月 10日に発掘調査器材などを現地に搬入し、調査区北側から調査を始めた。溝状土坑、土坑を検出し、順次精査を行った。
- 6月 月上旬に空撮を実施した。調査区西側工用道路の振り替え位置を確認し、事業者が新たな工用道路を敷設した。旧工用道路下の表土を重機で掘削し、遺構検出後、精査を行った。
- 7月 中旬に旧工用道路部分の空撮を実施した。調査器材を鉢森平(7)遺跡に移動し、29日にすべての調査を終了した。

2 整理・報告書作成作業

(1) 整体系制

整理主体 青森県埋蔵文化財調査センター

所 長	渡部 泰雄
次 長	稲葉 克徳
総務GM	佐藤 真理
調査第二GM	神 康夫
文化財保護主査	藤原 有希

専門的事項に関する指導・助言

調 査 員	関根 達人 国立大学法人弘前大学人文社会科学部教授 (考古学)
調 査 員	上條 信彦 国立大学法人弘前大学人文社会科学部教授 (考古学)
調 査 員	根本 直樹 国立大学法人弘前大学大学院理工学研究科講師 (地質学)

(2) 整理経過

- 4～6月 出土遺物の図化・観察表作成・写真撮影、検出遺構図の修正・編集を行った。

- 7～8月 遺構・遺物図版の版下を作成した。
- 9～11月 調査成果を総合的に判断して原稿作成を開始した。写真図版の版下を作成した。
- 12～2月 報告書の割付・編集を行い、印刷業者を選定して入稿した。
- 3月15日 校正を経て報告書を刊行した。
- 3月下旬 記録類・出土品を整理して収納し、すべての整理作業を完了した。 (藤原)

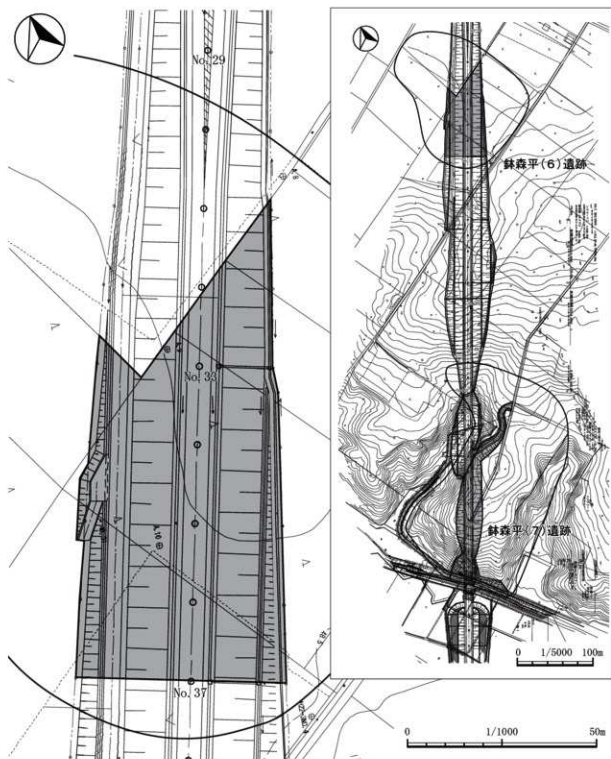


図1 路線図・調査範囲図

第2章 遺跡の環境

第1節 遺跡の位置と周辺の遺跡

鉢森平(6)遺跡は七戸町を流れる二ツ森川の左岸、標高約47mの段丘上に位置する。南には沢地形を挟んで鉢森平(7)遺跡が所在する。二ツ森川の南には、坪川が北西から南東に向かって流れる。この2つの河川は史跡二ツ森貝塚から南東に約1.5kmの地点で合流し、さらに高瀬川につながる。また、鉢森平(6)遺跡の北には赤川が北西から南東に向かって流れる。高瀬川と赤川はさらに東流し、小川原湖へと注ぎ込む。今回の調査で、鉢森平(6)遺跡からは縄文時代の落とし穴と考えられる溝状土坑を検出した。ここでは、遺跡周辺の赤川流域から二ツ森川流域、坪川流域、高瀬川流域のうち、図2に示した範囲の縄文時代について、発掘調査が行われた遺跡を中心に概観する。

赤川流域

早期では篠内平(1)遺跡で中葉から末葉にかけての土器が多く出土し、末葉の土器1個体が出土した土坑が特筆される。後期では内姥沢蝦夷館遺跡で十腰内V式の台付壺形土器が見られ、塔ノ沢山(5)遺跡などからも後期の土器が出土している。

二ツ森川流域

前期から中期にかけては史跡二ツ森貝塚が特筆される。現在の二ツ森川から北に0.5km、赤川から南に0.5km、高瀬川から西に1.2kmの段丘上に位置する。史跡二ツ森貝塚では、中期後葉に遺跡範囲が最大となり最盛期を迎える。台地上の東地区と西地区に居住域が広がり、馬蹄形の貝塚が形成され、地区の間には墓域が見られる。人骨が合葬された土坑や犬が埋葬された土坑も検出されている。土器・石器の他に骨角器・貝製品、動物遺存体も出土し、集落や環境の変遷を考察する上で極めて貴重な遺跡である。また、二ツ森貝塚からは晩期前葉の土器も出土している。

坪川流域

早期では塚長根遺跡から前葉の日計式土器が、舟場向川久保(2)遺跡や猪ノ鼻(2)遺跡から中葉の根井沼式やムシリI式の土器が、夷堂遺跡では早期後葉から前期初頭にかけての土器が出土している。また、猪ノ鼻(1)遺跡から中葉の土器埋設遺構と土坑が検出されている。土器は貝殻・沈線文系土器の良好な資料で、いわゆる鳥木沢式に比定されている。中期では猪ノ鼻(2)遺跡から円筒上層a・b・d式期の竅穴建物跡が、後平(1)遺跡から中期後葉から後期初頭の竅穴建物跡が検出されている。後期では猪ノ鼻(1)遺跡では中葉から後葉の竅穴建物跡を検出し、遺構内からは十腰内第II群土器と第III群土器、それらの中間的な様相を示す土器が出土している。また、中期前葉の土器が後平(2)遺跡、後平(3)遺跡から出土している。晩期では猪ノ鼻(1)遺跡から中葉から後葉(大洞C2～A式)の土器が出土している。

高瀬川流域

草創期では赤平(1)遺跡から剥片石器を主体とする遺物集中域が検出された。石刀素材の挿削器を主体とした神子柴・長者久保石器群に相当する。南西に位置する大坊頭遺跡からは神子柴・長者久保石器群に後出し、多縄文土器段階以前とされる石器が出土し、東に隣接する赤平(2)遺跡からも草創期頃の石器が出土している。前期には赤平(3)遺跡と大坊頭遺跡から早稲田6類の土器が、太田野(2)

遺跡と太田野(3)遺跡から繊維を含んだ土器が出土している。赤平(3)遺跡からは中期中葉の円筒上層d式の土器も出土している。後期では大池館遺跡から後期前葉の土器が、太田野(3)遺跡から十層内II式土器が出土している。晩期では、坂本館跡から後半の土器が、倉越(2)遺跡から晩期に属する土器が出土している。

(藤原)

表1 鉢森平(6)遺跡周辺の遺跡一覧

遺跡番号	遺跡名	時代	種別	主な文献	遺跡番号	遺跡名	時代	種別	主な文献
402004	大池館遺跡	縄文(早・前・中)、 弥生(中・後)、奈良、平安、中世	集落跡、 城館跡	七ノ町 2003、榎 1983-2005-2006	408025	赤平(1)遺跡	縄文(早・後)、奈良、平安	集落跡	榎 2008
402042	森倉(2)遺跡	弥生、奈良	集落跡	七ノ町 1999-2000	408026	赤平(2)遺跡	縄文(前)、弥生、平安、中世、近世	集落跡	榎 1983-2007-2008
402048	坂本館跡	平安、中世	集落跡、 城館跡	榎 1983、七ノ町 1999	408027	赤平(3)遺跡	縄文(早・前・中・後)、弥生、平安	集落跡	榎 2007
402064	倉越(2)遺跡	縄文(中・晩)、弥生(中・後)、奈良、平安	集落跡	七ノ町 1993-1998-2002、 榎 2005-2006-2009	408034	新館八幡遺跡	縄文(中)	散布地	
402080	大沢遺跡	縄文、弥生、平安	散布地	榎 2006	408036	塚遺跡	縄文	散布地	
402085	寒水遺跡	縄文、平安	散布地	榎 2006	408072	向平(2)遺跡	縄文(晩)、平安	散布地	東北町史
402086	太田野(2)遺跡	縄文、弥生、平安	集落跡	榎 2007-2008	408075	内鏡沢館奥館遺跡	縄文(後)、平安、中世	集落跡、 城館跡	東北町史、東北町 1991-2002、榎 1983
402087	太田野(3)遺跡	縄文(後)、弥生、平安、中世	集落跡	榎 2007	408077	内鏡沢遺跡	縄文(後)	集落跡	東北町史
402090	立野浜遺跡	縄文(後・晩)、平安、中世	散布地		408080	石文(1)遺跡	縄文(前・後)、奈良、平安	散布地、 集落跡	
402104	森ヶ沢遺跡	縄文(後)、弥生、古墳、奈良、平安	散布地	榎 1973、国立歴史 民俗学館 2008	408086	大畑屋(1)遺跡	縄文、平安	散布地	
402110	森ノ上遺跡	平安	墳墓	榎 1973	408098	藤沢(2)遺跡	縄文	散布地	
402112	二ツ森貝塚	縄文(前・中)、平安	集落跡、 貝塚	天間林村史、榎 1973、天間林村 (史跡) 1996-2000、七ノ 町 2007 ほか	408258	藤沢(1)遺跡	縄文(後)	散布地	
402115	舟場向川久保(1)遺跡	縄文(晩)	散布地		408261	乙供(2)遺跡	縄文	散布地	
402125	鉢森平(2)遺跡	縄文(後)	散布地		408262	乙供(3)遺跡	縄文(後)	散布地	東北町史
402126	鉢森平(3)遺跡	縄文(後)	散布地		408265	乙供(6)遺跡	縄文(後)、平安	散布地	
402128	李沢家ノ前(1)遺跡	縄文(早・前・後)	散布地		408269	赤田道(1)遺跡	縄文(前・後)、平安	散布地	
402129	李沢家ノ前(2)遺跡	縄文(前・中・後)、弥生	散布地		408270	大沢(2)遺跡	縄文	散布地	
402133	赤川遺跡	縄文(前)	散布地		408314	保戸沢家ノ後(4)遺跡	縄文(後)	散布地	
402134	鉢森平(4)遺跡	縄文(中)	散布地		408317	保戸沢家ノ後(8)遺跡	縄文(後)	散布地	
402141	鉢森平(5)遺跡	縄文(後)	散布地		408318	保戸沢家ノ後(9)遺跡	縄文	散布地	
402143	李沢家ノ下遺跡	縄文	散布地		408319	保戸沢家ノ後(10)遺跡	縄文、平安	散布地	
402145	夷堂遺跡	平安	散布地、 集落跡	榎 2018	408320	栗山浜(1)遺跡	縄文(後)	散布地	
402147	浅平(1)遺跡	縄文	集落跡	榎 2019-2020	408322	栗山浜(4)遺跡	縄文(後)	散布地	
402148	塚長館遺跡	縄文	狩猟場	榎 2018	408326	千夜下山(1)遺跡	縄文(後)	散布地	
402149	浅平(2)遺跡	縄文	集落跡	榎 2019	408327	千夜下山(2)遺跡	縄文(後)	散布地	東北町 2000
402150	浅平(3)遺跡	縄文(後)	集落跡	榎 2019	408328	夫娘原(1)遺跡	縄文(後)	散布地	東北町史
402151	第ノ森(1)遺跡	縄文、古墳、奈良、平安	集落跡	榎 2021	408335	夫娘原(8)遺跡	縄文(後)	散布地	
402152	浅平(4)遺跡	縄文	集落跡	榎 2020	408343	向平(3)遺跡	縄文(早)	散布地	
402153	舟場向川久保(2)遺跡	縄文	集落跡	榎 2022	408346	石文(2)遺跡	縄文(後)、平安	散布地	
402154	第ノ森(2)遺跡	縄文	集落跡	榎 2021	408347	藤内平(1)遺跡	縄文(後・晩)	散布地	東北町 2000
402155	鉢森平(6)遺跡	縄文	集落跡	報告遺跡	408375	塔ノ丸山(3)遺跡	縄文(後)	散布地	
402156	鉢森平(7)遺跡	縄文	集落跡		408380	大畑屋(2)遺跡	縄文(後)	散布地	
408017	新館遺跡	縄文(早)	散布地		408397	塔ノ丸山(4)遺跡	縄文	散布地	東北町 1993、東北 町史
408024	大坊浜遺跡	縄文、古墳、奈良、平安、近世	集落跡	榎 2008	408398	外鏡沢前平(3)遺跡	縄文(早・前・中・後・晩)、弥生、平安	集落跡	東北町 2011
					408399	乙供(10)遺跡	縄文(後)、平安	散布地	
					408400	塔ノ丸山(5)遺跡	不明	散布地	東北町 1998-2000
					408403	千夜遺跡	縄文	散布地	

※遺跡地名表から、本文中に記載のある遺跡及び時代に縄文時代が含まれる遺跡を抽出した。

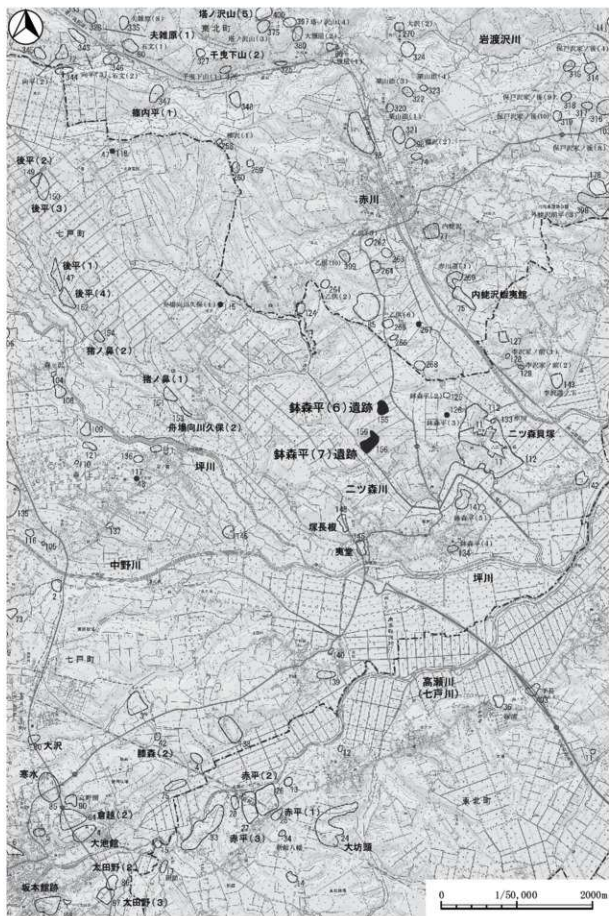


図2 遺跡位置・周辺の遺跡

第2節 鉢森平(6)遺跡周辺の地形・地質について

弘前大学大学院理工学研究科 根本 直樹

1 鉢森平(6)遺跡周辺の地形の概要

鉢森平(6)遺跡は、国史跡ニツ森貝塚の西方約1.7 kmの上北郡七戸町鉢森平に位置する。地形的には、ニツ森川左岸に分布する段丘面に載る(図3)。標高は約47~48 mである(図4)。

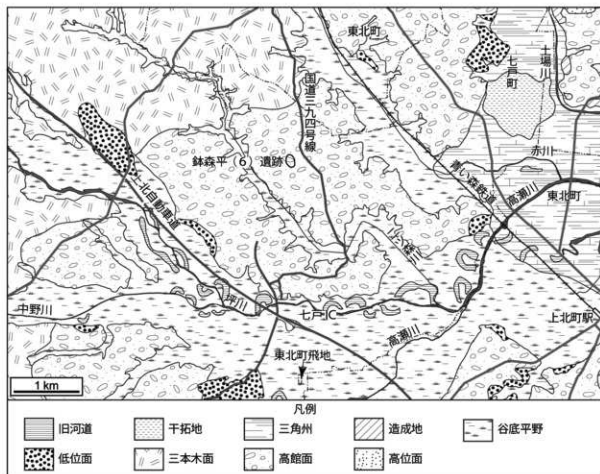


図3 鉢森平(6)遺跡周辺の地形分類図

鉢森平(6)遺跡周辺の地形を概観すると、大部分を数段の段丘面が占める。また、主要河川に沿って、谷底平野が狭長に分布し、高瀬川と土場川の下流域には三角洲が分布する。本稿では段丘面を上位から、高位面、高館面、三本木面、及び低位面に細分する。

高位面は、土場川左岸に小規模に分布する。標高は本来70 m前後だが、開析が進み50 m程度の部分もある。水野・堀田(1982)のGt I面に相当し、宮内(1985, 1988)及び根本(2020)の高位面に対比される。宮内(1985)はこの段丘面が47万~43万年前に形成されたとした。

高館面は、鉢森平(6)遺跡周辺に広く分布する海成段丘面である。標高は20~60 m程度である。段丘面は一般に平坦であるが、若干の起伏が認められる場合もある。宮内(1985, 1988)及び根本(2020, 2021, 2022)の高館面、水野・堀田(1982)のGt II面の一部、水野・堀田(1991)のGt II B面に

相当する。宮内（1985）によると、12万～11万年前に形成された。

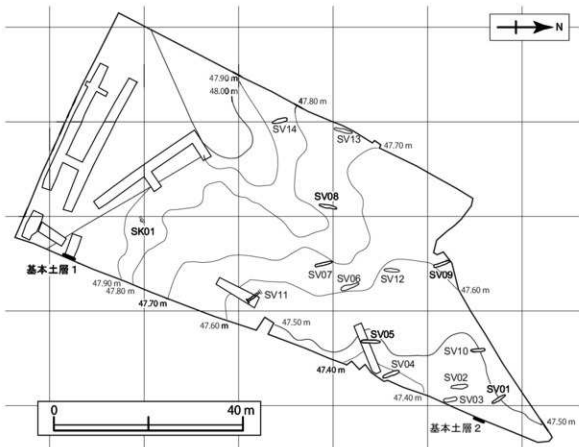


図4 鉢森平(6)遺跡の地形の詳細(青森県埋蔵文化財調査センターが作成した図を改編)

三本木面は、高館面の分布域の北西に広く分布する。標高は約40～65mで、南東に緩傾斜する。宮内（1985、1988）及び根本（2020、2021、2022）の三本木面、水野・堀田（1991）のGt II D面に相当する。本段丘面は八戸軽石流が作る地形であるが、この軽石流の噴出年代は15,300～14,900年前と推定されている（青木・新井、2000）。

低位面は、主要河川流域に小規模に分布する河成段丘面で、標高は10～15mである。宮内（1988）及び根本（2020、2021、2022）の低位面、水野・堀田（1991）のGt III面に相当する。三本木面ができた後に形成された。

谷底平野は、主要河川に沿って狭長に分布する。水野・堀田（1982、1991）及び根本（2020、2021、2022）の谷底平野に相当する。坪川及び高瀬川流域の谷底平野上には、旧河道の跡が見られる。完新世に形成された。

三角州は、高瀬川と土場川の下流域に分布する。水野・堀田（1982）の三角州に相当する。完新世に形成された。土場川右岸には干拓地が分布する。

鉢森平(6)遺跡周辺の主要河川は、北西乃至西から南東乃至東へ流下する(図5)。これは、この地域の大局的な傾斜を反映していると解釈される。水系は、鉢森平(6)遺跡北西方やその他の段丘面上の一部では樹枝状を示し、これらの地域の地質に方向性がないことを反映していると解釈される。一方、多くの段丘面上及び谷底平野には格子状の水系が発達するが、これは整備された用水路である。

また、坪川流域の谷底平野には複雑な水系が認められるが、これは未整備の用水路である。

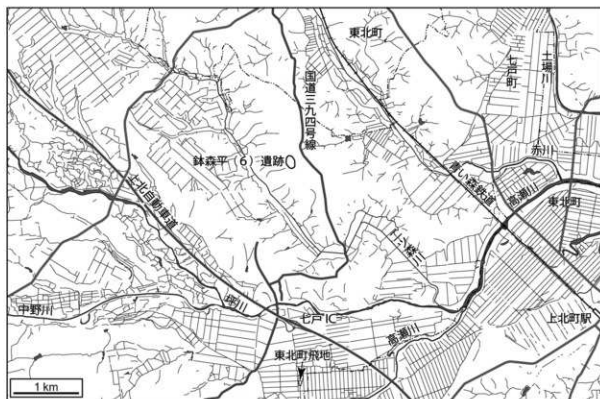


図5 鉢森平(6)遺跡周辺の水系図

2 鉢森平(6)遺跡周辺の地質

鉢森平(6)遺跡周辺には段丘が発達するため、遺跡周辺には段丘堆積物が広く分布する(図6)。それより古い地層としては、赤川及び坪川沿いの段丘崖の一部に野辺地層が小規模に露出する。一方、谷底平野は沖積層から構成される。

野辺地層は、岩井(1951)により命名された。岩井・大池(1982)の三沢層、岩井(1991)及び根本(2020、2021、2022)の野辺地層に相当する。土場川及び赤川の両岸、二ツ森川上流域、上北町駅南方の段丘崖に小規模な露出が見られる。層厚は約150mである。本層は主として黄褐色を呈する軟質な細～粗粒砂より成り、中～細礫層、泥層、火山灰層等を伴う。砂層には斜交層理が発達することが多い。それ以外の地域の層は青灰～暗青緑色を呈する泥～砂質泥から成り、沼崎泥部層と呼ばれる。桑原(2004)は野辺地付近に分布する本層を下位の大平層と上位の袋町層に区分し、袋町層は海洋酸素同位体ステージ9(337,000～300,000年前)以前に堆積したとした。本地域の最下位層である。

高位段丘堆積物は、土場川左岸に小規模に分布する。基底部は砂礫層より成り、その上位に天狗岱火山灰より上位の広域及び十和田カルデラ起源のテフラ層を挟む厚さ4mの風成層が重なる。礫層は主に安山岩の細～大円礫から成り、基質は褐色～赤褐色の粘土である。

高段丘堆積物は、根本(2020、2021、2022)の高館段丘堆積物に相当する。鉢森平(6)遺跡周辺に広く分布する。下部は主に砂層から成り、これを厚さ数mの風成層が覆う。砂層は細～中粒砂より成り、細～中礫層を挟む。風成層には洞爺テフラより上位の広域テフラ及び十和田カルデラ起源の

テフラが挟まれる。洞爺テフラの噴出年代は106,000年前とされている (Matsu'ura et al., 2014)。

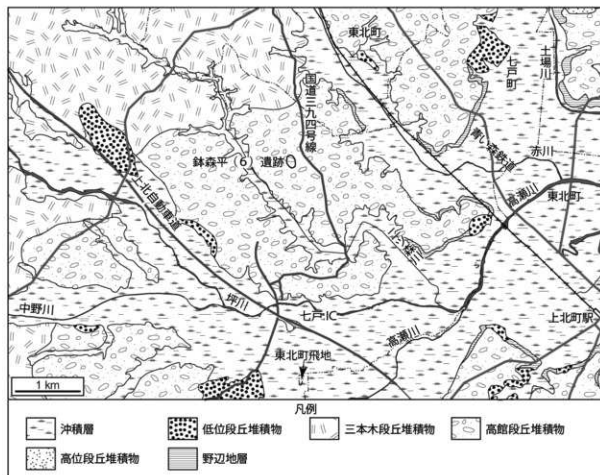


図6 鉢森平(6)遺跡周辺の地質図

三本木段丘堆積物は、岩井 (1991) の河岸段丘・扇状地堆積物の一部、根本 (2020, 2021, 2022) の三本木段丘堆積物に相当する。鉢森平(6)遺跡の北方から西方にかけて広く分布する。厚さ2~5mの八戸軽石流を主体とし、その下位に砂礫層が認められることがある。また、八戸軽石流の上位には軽石流の二次堆積物が重なる。八戸軽石流は灰白色の軽石と明灰色の粗粒火山灰から成る。他の十和田火山噴出物とは異なり、軽石にホルンブレンドを含むという特徴がある。青木・新井 (2000) は、本軽石流の噴出年代を15,300~14,900年前と推定している。二次堆積物は軽石礫を含む粗粒砂から成る。水流下での堆積を反映して、斜交葉理が発達する。

低位段丘堆積物は、岩井 (1991) の河岸段丘堆積物の一部及び根本 (2020, 2021, 2022) の低位段丘堆積物に相当する。土場川右岸、赤川左岸、坪川左岸、中野川右岸、七戸インターチェンジ南方等に小規模に分布する。一般に砂礫層より成るが、一部では八戸軽石流の二次堆積物から成る。層厚は1~3mである。

沖積層は、岩井・大池 (1982) 及び岩井 (1991) の沖積低地堆積物、根本 (2020, 2021, 2022) の沖積層に相当する。主要河川に沿って分布する。主として砂礫層より成り、砂層及び粘土層を挟む。各河川流域とも、下流ほど砂層及び粘土層の割合が増加する。後氷期の海面上昇に伴って堆積した。

3 鉢森平(6)遺跡における土層の層序

鉢森平(6)遺跡の土層について、青森県埋蔵文化財調査センターの調査結果に基づいて、以下に記述する。土層の層序を観察したのは、基本土層1及び2の2断面で、それらの位置を図4に、概要と写真を図7に、それぞれ示す。

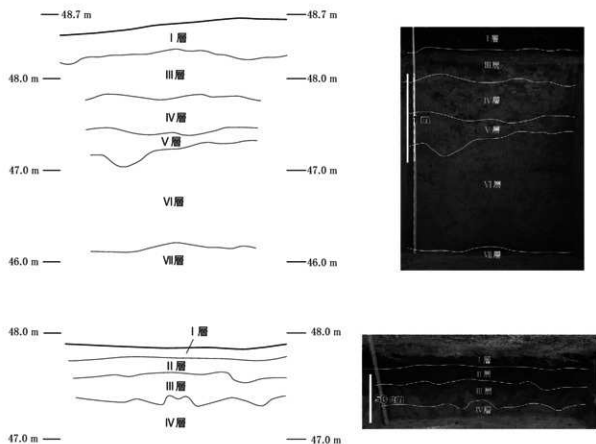


図7 基本土層1(上)及び2(下)での層序の概要(左)とその写真(右)

基本土層1は、遺跡南東縁付近に位置する。ここでの土層は、下位よりVII～III及びI層の6層に区分され、ほぼ水平にこの順序で重なる。VII層は褐色(7.5YR4/3)を呈する砂質シルト層である。溝状土坑の底面をなす。比較的固結しており、粘性は中程度である。粒径10～30mmの暗赤褐色(7.5YR3/4)を呈する風化した礫を5%、粒径5mm以下で青灰色を呈する礫を若干含む。VI層は黄褐色(10YR5/6)を呈するシルト層である。若干固結しており、粘性は中程度である。粒径1～3mmの黄褐色を呈する変質した軽石粒及び細礫をそれぞれ1%含む。軽石粒は八戸軽石流に由来すると思われる。直径1～3mmのマンガン斑が認められる。V層は褐色(10YR4/4)を呈する砂質シルト層である。若干固結しており、粘性は低い。薄い砂層を挟み、不明瞭ながらも斜交葉理が認められることから水成層と推定される。粒径5mm以下の黄褐色を呈する変質した軽石粒及び細礫をそれぞれ2%、長径1mm程度の炭化物を1%含む。VI層との境界は不規則で、一部で削り込んでいる。IV層は褐色(10YR4/6)を呈するシルト層である。若干固結しており、粘性は中程度である。粒径3mm以下の黄褐色を呈する変質した軽石粒及び暗青灰色(5BG4/1)を呈する細礫をそれぞれ1%含む。

本層とⅢ層の境界で主要な遺構が確認された。Ⅲ層は黒褐色（10YR3/2）を呈する土層である。若干固結しており、粘性は中程度である。Ⅳ層に由来する黄褐色のシルトとⅠ層の土壌がまだらに混合している。粒径1～5mmの黄褐色を呈する変質した軽石粒を3%含む。Ⅰ層は黒色（10YR1.7/1）を呈する土層である。未固結で、粘性は低い。

基本土層2は、遺跡北東縁付近に位置する。ここでの土層は、下位よりⅣ～Ⅰ層の4層に区分され、ほぼ水平にこの順序で重なる。Ⅳ層は褐色（10YR4/6）を呈するシルト層である。若干固結しており、粘性は中程度である。粒径3mm以下の黄褐色を呈する変質した軽石粒及び暗青灰色（5BG4/1）を呈する細礫を1%含む。本層とⅢ層の境界で主要な遺構が確認された。Ⅲ層は黒褐色（10YR3/2）を呈する土層である。若干固結しており、粘性は中程度である。Ⅳ層に由来する黄褐色のシルトとⅡ層の土壌がまだらに混合している。Ⅱ層は黒色（10YR2/1）を呈する土層である。未固結で、粘性は低い。長径1～3mmの炭化物を3%含む。Ⅰ層は黒色（10YR1.7/1）を呈する土層である。未固結で、粘性は低い。

引用文献

- 青木かおり・新井房夫(2000)三陸沖海底コア KH94-3, LM-8 の後期更新世テフラ層序, 第四紀研究, vol.39, p.107-120.
- 岩井淳一(1951)青森県東部の更新統, 東北大学理学部地質学古生物学教室研究邦文報告, no.40, p.1-31.
- 岩井武彦(1991)表層地質図, 青森県農林部土地改良第一課編, 5万分の1土地分類基本調査「七戸」, 青森県農林部土地改良第一課, p.19-29.
- 岩井武彦・大池昭二(1982)表層地質図, 青森県農林部土地改良第一課編, 5万分の1土地分類基本調査「三沢」, 青森県農林部土地改良第一課, p.17-27.
- 桑原拓一郎(2004)青森県東部上北平野における海成段丘構成物の層序と相対的海面変化, 地質学雑誌, vol.110, p.93-102.
- Matsu'ura, T., Furusawa, A., Shimogama, K., Goto, N. and Komatsubara, J. (2014) Late Quaternary tephrostratigraphy and cryptotephrostratigraphy of deep-sea sequences (Chikyu C9001C cores) as tools for marine terrace chronology in NE Japan, Quaternary Geochronology, vol.23, p.63-79.
- 宮内崇裕(1985)上北平野の段丘と第四紀地殻変動, 地理学評論, vol.58, Series A, p.492-515.
- 宮内崇裕(1988)東北日本北部における後期更新世海面の対比と編年, 地理学評論, vol.61, p.404-422.
- 水野 裕・堀田報誠(1982)地形分類図, 青森県農林部土地改良第一課編, 5万分の1土地分類基本調査「三沢」, 青森県農林部土地改良第一課, p.11-16.
- 水野 裕・堀田報誠(1991)地形分類図, 青森県農林部土地改良第一課編, 5万分の1土地分類基本調査「七戸」, 青森県農林部土地改良第一課, p.13-18.
- 根本直樹(2020)後平(4)遺跡周辺の地形・地質について, 青森県埋蔵文化財調査報告書, no.607, p.5-9.
- 根本直樹(2021)猪ノ鼻(1)遺跡周辺の地形・地質について, 青森県埋蔵文化財調査報告書, no.616, p.15-21.
- 根本直樹(2022)舟場向川久保(2)遺跡の地形・地質について, 青森県埋蔵文化財調査報告書, no.625, p.8-12.

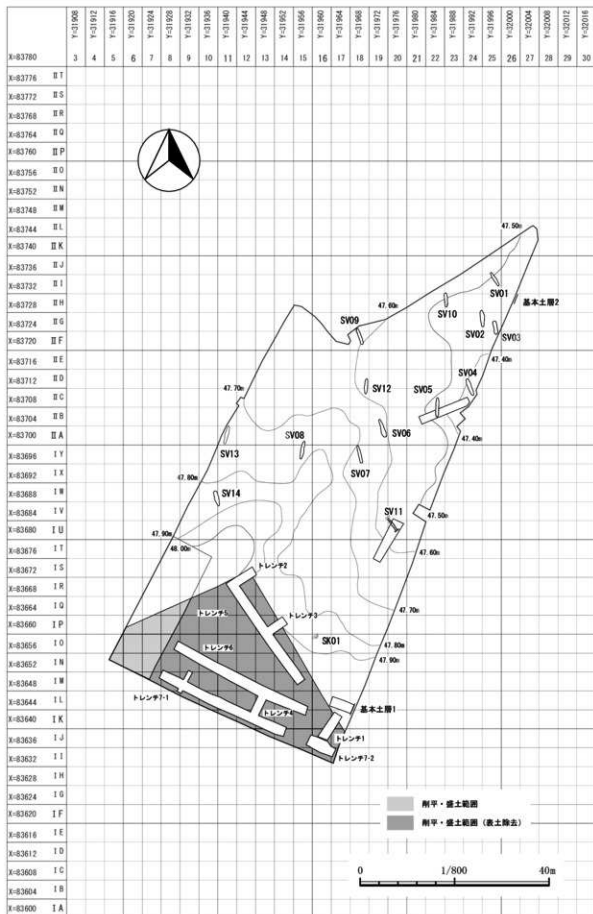


図8 遺構配置図

第3章 検出遺構と出土遺物

調査区内で、縄文時代の溝状土坑を14基、古代以降の土坑を1基検出した。

調査区は段丘上に位置しており、標高47.4～48mで、南から北へ向かって若干下がるもののほぼ平坦である。調査区外南側は約50mほどで段丘面を開削して二ツ森川に続く沢地形頭部となる。調査区南端の境界から沢頭までは緩斜面となっている。基本土層は、I層が表土、II層が黒色土層、III層が漸移層、IV層以下が地山となる。調査区南側の基本土層1ではII層が欠落する(第2章第2節)。遺構確認面はIII層及びIV層である。

調査前の土地利用状況は北側が林、南側が畑であった。畑では長芋の作付けに伴うトレンチャーで溝状の掘り込みが調査区全面に入っていた。IK-17～IS-12～IR-9グリッド以南は、表土を除去したところ、地山掘削後に盛り土が行われていることを確認した。そのため、トレンチ1～7(図8)を設定し、遺構の残存状況を確認したところ地山掘削部は基本土層VI・VII層まで達しており、溝状土坑の底面等も確認できなかった。掘削が基本層序VI・VII層まで達していること、トレンチ調査で遺構が確認できなかったこと、周辺の遺構配置状況から、この部分に遺構・遺物はないと判断し、トレンチ調査で終了とした。また、IU-8～IT-10～IM-7グリッドは、土地利用状況から地山掘削が広がっていることと、周辺の遺構配置状況からこの部分に遺構・遺物はないと判断し、掘削等は行わなかった。

第1節 溝状土坑

14基検出した。主に調査区北側に集中している。遺構同士が重複するものは確認できなかった。遺物はSV10から縄文土器が1点出土した。

第1号溝状土坑(SV01、図9)

[位置・確認] II・IIJ-25グリッドに位置する。確認面はIII層、底面はVI～VII層である。

[規模] 開口部長軸330cm、短軸70cm、底面長軸338cm、短軸11cmを測る。検出面からの深さは141cmで、底面はほぼ平坦である。長軸断面形は北西端が箱型で、南東端が開口部よりオーバーハングしたフラスコ状を呈する。短軸断面形は緩いY字状である。長軸方向はN-31°-Wである。

[堆積土] 4層に分層した。3層はIV層由来の褐色土を主体とする。4層は黒褐色土である。

第2号溝状土坑(SV02、図9)

[位置・確認] IIG・IIH-24・25グリッドに位置する。確認面はIII層、底面はVI～VII層である。

[規模] 開口部長軸353cm、短軸94cm、底面長軸337cm、短軸10cmを測る。検出面からの深さは213cmで、底面は南側が一段下がる。長軸断面形は箱型で、短軸断面形は緩いY字状を呈する。長軸方向はN-6°-Wである。

[堆積土] 8層に分層した。4層はIV層由来の褐色土を主体とする。6・8層は黒褐色土と褐色土の互層を成す。

第3号溝状土坑 (SV03、図9)

[位置・確認] II F・II G-25 グリッドに位置する。確認面はIII層、底面はVI層である。

[規模] 開口部長軸 287cm、短軸 79cm、底面長軸 300cm、短軸 6cm を測る。検出面からの深さは 148cm で、底面はほぼ平坦である。長軸断面形は開口部の直下より屈曲しオーバーハングしたフラスコ状を呈する。短軸断面形はV字状である。長軸方向はN-8°-Wである。

[堆積土] 4層に分層した。3層はIV層由来の褐色土を主体とする。4層は黒褐色土と褐色土の互層を成す。

第4号溝状土坑 (SV04、図10)

[位置・確認] II C・II D-24 グリッドに位置する。確認面はIV層、底面はVI層である。

[規模] 開口部長軸 375cm、短軸 90cm、底面長軸 358cm、短軸 11cm を測る。検出面からの深さは 140cm で、底面は北側が一段下がる。長軸断面形は開口部から緩やかにオーバーハングしたフラスコ状を呈する。短軸断面形は緩いY字状である。長軸方向はN-20°-Wである。

[堆積土] 3層に分層した。3層はIV層由来の灰黄褐色土を主体とする。

第5号溝状土坑 (SV05、図10)

[位置・確認] II B・II C-22 グリッドに位置する。試掘トレンチ内で検出した。確認面はIV層、底面はVI～VII層である。

[規模] 開口部長軸 410cm、短軸 67cm、底面長軸 402cm、短軸 10cm を測る。検出面からの深さは 167cm で、底面は中央に向かって緩やかに窪む。長軸断面形は箱型を呈する。短軸断面形はV字状である。長軸方向はN-1°-Eである。

[堆積土] 3層に分層した。3層はIV層由来の褐色土を主体とする。3層の下部に黒色土を 15cm 程確認した。

第6号溝状土坑 (SV06、図10)

[位置・確認] II A・II B-19 グリッドに位置する。確認面はIII層、底面はVI～VII層である。

[規模] 開口部長軸 397cm、短軸 65cm、底面長軸 387cm、短軸 11cm を測る。検出面からの深さは 177cm で、底面は中央に向かって緩やかに窪む。長軸断面形は箱型、短軸断面形は緩いY字状を呈する。長軸方向はN-18°-Wである。

[堆積土] 3層に分層した。3層はIV層由来の褐色土を主体とする。下部に黒色土を 10cm 程確認した。

第7号溝状土坑 (SV07、図11)

[位置・確認] I Y-18 グリッドに位置する。確認面はIII層、底面はVI～VII層である。

[規模] 開口部長軸 374cm、短軸 65cm、底面長軸 383cm、短軸 6cm を測る。検出面からの深さは 122cm で、底面は中央に向かって緩やかに窪む。長軸断面形は開口部よりややオーバーハングしたフラスコ状を呈する。短軸断面形は緩いY字状を呈する。長軸方向はN-14°-Wである。

[堆積土] 2層に分層した。

第8号溝状土坑 (SV08、図11)

[位置・確認] IY・IIA-15グリッドに位置する。確認面はIII層、底面はVI～VII層である。

[規模] 開口部長軸386cm、短軸75cm、底面長軸385cm、短軸10cmを測る。検出面からの深さは171cmで、底面は南側が緩やかに窪む。長軸断面形は箱形、短軸断面形は緩いY字状を呈する。長軸方向はN-12°-Eである。

[堆積土] 4層に分層した。3層はIV層由来の褐色土を主体とする。4層は黒褐色土と褐色土の互層を成す。

第9号溝状土坑 (SV09、図11)

[位置・確認] IIF・IIG-18グリッドに位置する。確認面はIII層、底面はVI～VII層である。

[規模] 開口部長軸360cm、短軸65cm、底面長軸329cm、短軸11cmを測る。検出面からの深さは178cmで、底面はほぼ平坦である。長軸断面形は箱形で、下部がやや緩やかに膨らむ。短軸断面形は緩いY字状を呈する。長軸方向はN-20°-Wである。

[堆積土] 3層に分層した。3層はIV層由来の褐色土を主体とする。

第10号溝状土坑 (SV10、図12)

[位置・確認] IIH-23グリッドに位置する。確認面はIII層、底面はVI～VII層である。

[規模] 開口部長軸305cm、短軸64cm、底面長軸286cm、短軸12cmを測る。検出面からの深さは159cmで、底面はほぼ平坦である。長軸断面形は箱形、短軸断面形は緩いY字状を呈する。長軸方向はN-4°-Wである。

[出土遺物] 1層から縄文土器が1点出土した(図13-1)。横位の沈線文が3条、縦位の弧状文が2条施され、縄文時代後期前葉十腰内I式に相当すると考えられる。

[堆積土] 4層に分層した。

第11号溝状土坑 (SV11、図12)

[位置・確認] IUI・IIV-20グリッドに位置する。試掘トレンチ内で検出した。確認面はIV層、底面はVI層である。

[規模] 開口部は耕作により両端が削平される。残存部長軸304cm、短軸42cm、底面長軸294cm、短軸10cmを測る。検出面からの深さは104cmで、底面はほぼ平坦である。長軸断面形は箱形、短軸断面形はV字状を呈する。長軸方向はN-36°-Wである。

[堆積土] 2層に分層した。2層はIV層由来の褐色土を主体とする。底面に暗褐色土を15cm程確認した。

第12号溝状土坑 (SV12、図12)

[位置・確認] IIC・IID-18グリッドに位置する。確認面はIII層、底面はVI～VII層である。

[規模] 開口部長軸325cm、短軸75cm、底面長軸292cm、短軸16cmを測る。検出面からの深さは127cmで、底面はほぼ平坦である。長軸断面形は箱形、短軸断面形は緩いY字状を呈する。長軸方

向は $N-5^{\circ}-E$ である。

[堆積土] 4層に分層した。3層はIV層由来の褐色土を主体とする。4層の底面直上は黒褐色土が堆積する。

第13号溝状土坑 (SV13、図13)

[位置・確認] II A-11 グリッドに位置する。確認面はIII層、底面はVI~VII層である。

[規模] 開口部長軸391cm、短軸74cm、底面長軸405cm、短軸9cmを測る。検出面からの深さは157cmで、底面はほぼ平坦である。長軸断面形は、開口部からくびれたあとオーバーハンクしたフラスコ状を、短軸断面形はY字状を呈する。長軸方向は $N-13^{\circ}-E$ である。

[堆積土] 5層に分層した。2層はIV層由来の褐色土がブロック状に入り、3層は褐色土が主体となる。5層の底面直上は黒褐色土が堆積する。

第14号溝状土坑 (SV14、図13)

[位置・確認] I V・I W-10・11 グリッドに位置する。確認面はIII層、底面はVI~VII層である。

[規模] 開口部長軸331cm、短軸91cm、底面長軸297cm、短軸12cmを測る。検出面からの深さは131cmで、底面はほぼ平坦である。長軸断面形は、開口部より緩くオーバーハンクしたフラスコ状を、短軸断面形はY字状を呈する。長軸方向は $N-15^{\circ}-W$ である。

[堆積土] 4層に分層した。3層はIV層由来の褐色土を主体とする。4層の底面直上は黒褐色土が堆積する。

第2節 土坑

第1号土坑 (SK01、図13)

[位置・確認] I O-16 グリッドに位置する。確認面はIV層上面、底面はIV層である。

[規模] 北西側を耕作により削平されており、長軸61cm、残存部短軸27cmを測る。検出面からの深さは21cmである。

[堆積土] 1層である。白頭山-苦小牧火山灰 (B-Tm) と十和田 a 火山灰 (To-a) を含む。火山灰の堆積は、堆積土中に粒が均一に混在しており、埋め戻しに伴う人為堆積によるものと考えられる。

[遺構の時期] 火山灰の堆積から、古代以降に帰属すると考えられる。

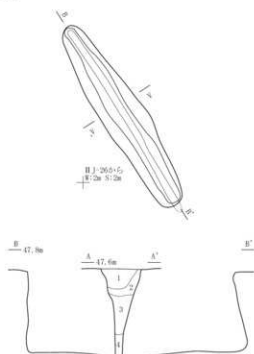
第3節 遺構外出土遺物

遺構外から土器1点、石器1点が出土した。土器は深鉢あるいは鉢の体部破片で、縦位の縄文が施文される(図13-2)。縄文時代後期前葉に属すると考えられる。剥片は調査区北端II L-27付近から出土した(図13-3)。縁辺に微細剥離が見られる。重量は11.0gで泥岩を素材とする。

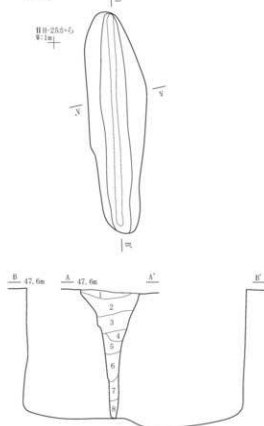
(藤原)



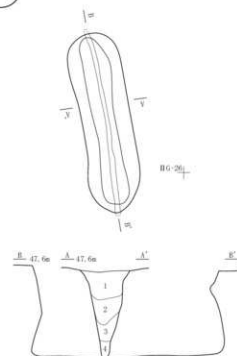
第1号溝状土坑



第2号溝状土坑



第3号溝状土坑



SV01

- 1層 101R2/1 黒色土 しまり中 粘性中
 $\phi 1\sim 5\text{mm}$ の褐色土粒(IV層山采)3%、 $\phi 1\text{mm}$ の白色粒子20%、II層山采。
 2層 101R3/3 暗褐色土 しまり中 粘性中
 $\phi 1\text{mm}$ の炭化物粒1%、褐色土(IV層山采)まだら状に20%。
 3層 101R4/4 褐色土 しまり弱 粘性中
 $\phi 1\text{mm}$ の炭化物粒1%、101R3/3の暗褐色土20%、IV層山采。
 4層 101R2/2 黒褐色土 しまり中 粘性中
 $\phi 1\text{mm}$ の炭化物粒1%、褐色土(IV層山采)3%。

SV02

- 1層 101R2/1 黒色土 しまり中 粘性中
 $\phi 1\sim 3\text{mm}$ の褐色土粒(IV層山采)3%、 $\phi 1\text{mm}$ の白色粒子10%、II層山采。
 2層 101R2/2 黒褐色土 しまり中 粘性中
 $\phi 1\sim 5\text{mm}$ の褐色土粒(IV層山采)5%、 $\phi 1\text{mm}$ の白色粒子20%。
 3層 101R3/2 黒褐色土 しまり中 粘性中
 $\phi 1\sim 10\text{mm}$ の褐色土粒(IV層山采)10%、 $\phi 1\text{mm}$ の炭化物粒1%。
 4層 101R4/4 褐色土 しまり弱 粘性中
 $\phi 1\text{mm}$ の白色粒子1%、IV層山采。
 5層 101R3/3 暗褐色土 しまり弱 粘性中
 $\phi 1\text{mm}$ の白色粒子3%、 $\phi 1\sim 3\text{mm}$ の炭化物粒3%。
 6層 101R2/2 黒褐色土と101R4/4褐色土の互層 しまり中 粘性弱
 $\phi 1\sim 3\text{mm}$ の炭化物粒3%。
 7層 101R3/2 黒褐色土 しまり中 粘性中
 $\phi 1\sim 3\text{mm}$ の炭化物粒1%、 $\phi 1\sim 5\text{mm}$ の褐色土粒(IV層山采)5%。
 8層 101R2/2 黒褐色土と101R4/4褐色土の互層 しまり中 粘性弱

SV03

- 1層 101R2/1 黒色土 しまり中 粘性中
 $\phi 1\sim 3\text{mm}$ の炭化物粒3%、 $\phi 1\sim 5\text{mm}$ の褐色土粒(IV層山采)10%、
 $\phi 1\text{mm}$ の白色粒子20%、II層山采。
 2層 101R3/2 黒褐色土 しまり中 粘性中
 $\phi 1\text{mm}$ の炭化物粒1%、褐色土(IV層山采)まだら状に50%。
 3層 101R4/4 褐色土 しまり弱 粘性中
 4層 101R2/2 黒褐色土と101R4/4褐色土の互層 しまり中 粘性中
 $\phi 1\text{mm}$ の炭化物粒1%。

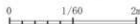
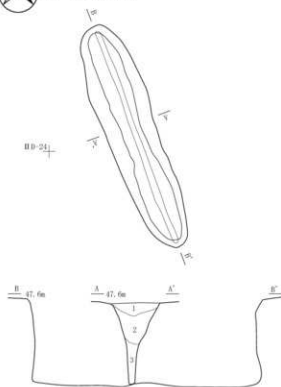


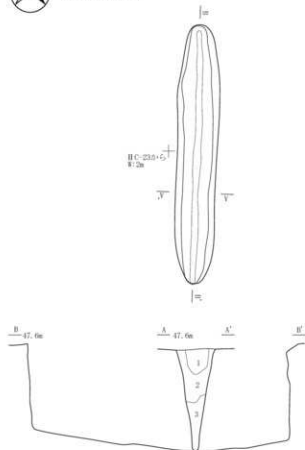
図9 溝状土坑(1)



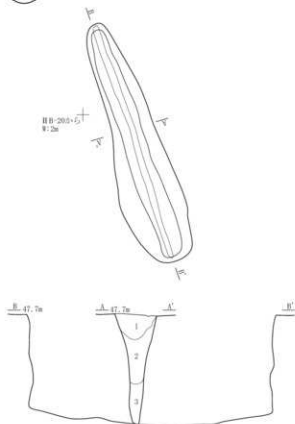
第4号溝状土坑



第5号溝状土坑



第6号溝状土坑



SV04

- 1層 103R2/1 黒色土 しまり中 粘性中
φ1mmの炭化物粒1%, φ1mmの白色粒子1%, II層由來。
- 2層 103R3/1 黒褐色土 しまり中 粘性中
φ1~5mmのぶい黄褐色土粒(IV層由來)5%,
IV層まだら状に30%。
- 3層 103R4/2 灰黄褐色土 しまり弱 粘性中
φ1~3mmの炭化物粒2%, IV層由來。

SV05

- 1層 103R2/1 黒色土 しまり中 粘性中
φ1mmの炭化物粒2%, φ1mmの白色粒子20%,
φ1~3mmの褐色土粒(IV層由來)10%。
- 2層 103R4/3 ぶい黄褐色土 しまり中 粘性中
φ1~3mmの炭化物粒2%, 褐色土(IV層由來)まだら状に30%。
- 3層 103R4/4 褐色土 しまり弱 粘性中
φ1~3mmの炭化物粒1%, IV層由來。

SV06

- 1層 103R2/1 黒色土 しまり中 粘性中
φ1mmの炭化物粒1%, 白色粒子10%,
φ1~5mmの褐色土粒(IV層由來)5%, II層由來。
- 2層 103R3/2 黒褐色土 しまり弱 粘性中
φ1~3mmの炭化物粒2%, 褐色土(IV層由來)ブロック状に30%。
- 3層 103R4/4 褐色土 しまり弱 粘性中
IV層由來, 103R3/2の黒褐色土まだら状に20%。

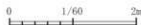


図10 溝状土坑(2)

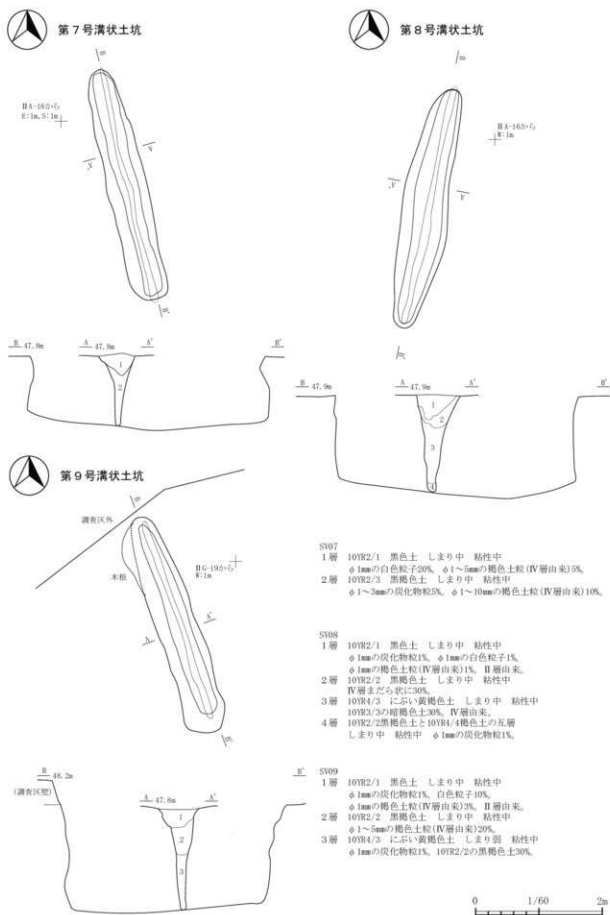
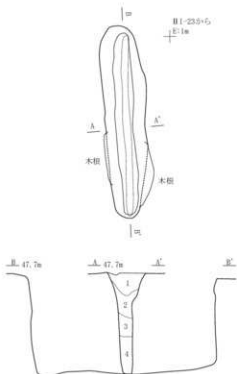


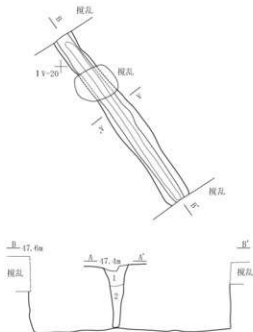
図11 溝状土坑(3)



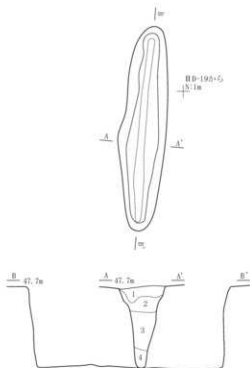
第10号溝状土坑



第11号溝状土坑



第12号溝状土坑



SV10

- 1層 10YR2/1 黒色土 しまり中 粘性中
 ϕ 1mmの白色粒子20%, ϕ 1mmの褐色土粒(IV層由来)3%
- 2層 10YR2/2 黒褐色土 しまり中 粘性中
 ϕ 1mmの炭化物粒5%, ϕ 1~5mmの褐色土粒(IV層由来)20%
- 3層 10YR3/1 黒褐色土 しまり中 粘性中
 ϕ 1mmの炭化物粒3%, 褐色土(IV層由来)10%
- 4層 10YR2/2 黒褐色土 しまり中 粘性中
 ϕ 1mmの炭化物粒3%, ϕ 1~5mmの褐色土粒(IV層由来)5%

SV11

- 1層 10YR3/1 黒褐色土 しまり中 粘性中
 ϕ 1mmの炭化物粒1%, ϕ 1~10mmの褐色土粒(IV層由来)10%
- 2層 10YR4/4 褐色土 しまり弱 粘性中
 ϕ 1mmの炭化物粒1%, 10YR3/3の暗褐色土ブロック状に10%

SV12

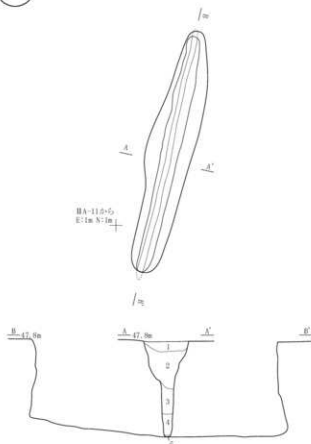
- 1層 10YR2/1 黒色土 しまり中 粘性中
 ϕ 1mmの炭化物粒1%, ϕ 1mmの白色粒子10%,
 ϕ 1~5mmの褐色土粒(IV層由来)5%, II層由来
- 2層 10YR3/2 黒褐色土 しまり弱 粘性中
 ϕ 1mmの炭化物粒1%, ϕ 1~5mmの褐色土粒(IV層由来)10%
- 3層 10YR4/4 褐色土 しまり弱 粘性中
 IV層由来, 10YR3/2の黒褐色土10%
- 4層 10YR3/1 黒褐色土 しまり弱 粘性中
 ϕ 1~3mmの炭化物粒3%



図12 溝状土坑(4)



第13号溝状土坑

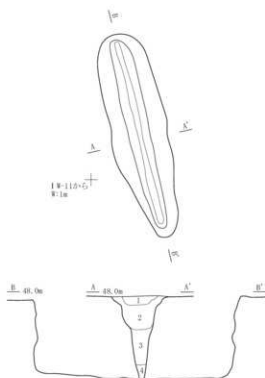


SV13

- 1層 10YR2/1 黒色土 しまり弱 粘性中
 ϕ 1~3mmの炭化物粒3%。
 ϕ 1~5mmの黄褐色土粒(IV層由来)5%。II層由来の黒色土層。
- 2層 10YR3/2 黒褐色土 しまり弱 粘性中
 ϕ 1~3mmの炭化物粒5%。黄褐色土(IV層由来)ブロック状に10%。
 黒褐色土ブロック状に5%。
- 3層 10YR4/3 にぶい黄褐色土 しまり弱 粘性中
 ϕ 1mmの炭化物粒2%。黒褐色土(10YR3/2)10%。
- 4層 10YR2/1 黒色土 しまり弱 粘性中
 ϕ 1mmの炭化物粒5%。黄褐色土(IV層由来)3%。
- 5層 10YR2/1黒色土と10YR4/4褐色土との互層
 しまり弱 粘性中



第14号溝状土坑

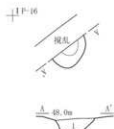


SV14

- 1層 10YR2/1 黒色土 しまり弱 粘性中
 ϕ 1~3mmの炭化物粒3%。
 ϕ 1mmの黄褐色土粒(IV層由来)3%。II層由来。
- 2層 10YR3/2 黒褐色土 しまり弱 粘性中
 ϕ 1~3mmの炭化物粒3%。
 ϕ 1~10mmの黄褐色土粒(IV層由来)に10%。
- 3層 10YR4/4 褐色土 しまり弱 粘性中
 IV層由来。10YR3/2の黒褐色土30%。
- 4層 10YR2/1黒色土と10YR4/4褐色土との互層
 しまり弱 粘性中

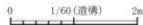


第1号土坑



SK01

- 1層 10YR4/1 樹灰色シルト
 B-Tn(ϕ ~30mm)10%とTo-a(ϕ ~20mm)7%が均一に混在。
 炭化物粒(ϕ ~10mm)2%。ローム粒(ϕ ~5mm)1%。
 火山灰の状況は埋め戻しに伴うものと考えられる。



出土遺物

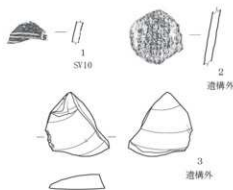


図13 溝状土坑(5)・土坑・出土遺物

第4章 総括

今回の調査で、溝状土坑14基、土坑1基が検出され、土器2点と石器1点が出土した。土坑は堆積土にB-TmとTo-aが含まれることから古代以降に帰属すると考えられる。ここでは、比較的同時に検出した溝状土坑について概観する。

溝状土坑の確認面の標高は約47mである。長軸が287～410cm、短軸が42～94cmの長楕円形を呈し、深さは上部が削平されたものを除くと検出面から122～213cmを測る。底面はVI～VII層に達し、主軸方向はN-36°-WからN-13°-Eの範囲に取まる。西に傾くものが10基(SV01～04・06・07・09～11・14)、東に傾くものが4基(SV05・08・12・13)である。配置は、北東-南西方向に並ぶ列が2～3列あると推測される。SV10の堆積土中からは縄文時代後期前葉の十腰内1式と考えられる土器片が出土した。上層からの出土で、窪地への流れ込みみととらえることができ、当該時期には溝状土坑としての機能を終了していたと推定する。溝状土坑はこれまでおおむね縄文時代中期から後期前葉の落とし穴と考えられており(福田2018、藤原2019)、今回の検出状況と整合する。

溝状土坑の帰属時期と考えられている縄文時代中期から後期前葉にかけて、遺跡周辺の赤川、二ツ森川、坪川、高瀬川流域での溝状土坑の検出状況は以下のとおりである(第2章図2参照)。

赤川流域: 左岸の千曳下山(2)遺跡で2基、塔ノ沢山(5)遺跡で1基、内蛇沢蝦夷館で10基の溝状土坑が検出されている。

二ツ森川流域: 左岸の鉢森平(7)遺跡で15基、二ツ森川・赤川に挟まれた二ツ森貝塚で14基の溝状土坑が検出されている。(鉢森平(7)遺跡は令和6年度報告書刊行予定)

坪川流域: 左岸の後平(1)遺跡で12基、後平(2)遺跡で3基、後平(4)遺跡で9基、塚長根遺跡で16基、夷堂遺跡で19基の溝状土坑が検出されている。

高瀬川流域: 左岸の大沢遺跡で12基、寒水遺跡で21基、倉越(2)遺跡で18基、大池館遺跡で13基、膝森(2)遺跡で1基、右岸の太田野(2)遺跡で23基、太田野(3)遺跡で7基、赤平(1)遺跡で3基、赤平(2)遺跡で17基、赤平(3)遺跡で38基、大坊頭遺跡で24基の溝状土坑が検出されている。

周辺の遺跡で検出された溝状土坑は、舌状台地や沢に挟まれた台地等の上部平坦面や斜面部で多く確認されており、動物が水場として利用していたと考えられる沢付近に構築していたと推測できる。一方、鉢森平(6)遺跡で検出した溝状土坑は、台地上の平坦面に分布する。遺跡の南側は、二ツ森川の左岸から入り込んだ谷に向かって緩やかに下がる(図1)。調査区南側は掘削されており分布の有無は不明だが、今回の調査区より南側の試掘調査で溝状土坑は確認されていない(青教委2022)ことから、調査区以南に分布は広がらないと推定される。また、今回の調査区より北側の試掘調査でも遺構・遺物は確認されていない(青教委2021)ことから、南北方向への溝状土坑の分布は今回の調査区内で取束し、北東-南西方向の列状配置から、北東-南西方向ではさらに調査区外に広がると推定される。鉢森平(6)遺跡の南に位置する鉢森平(7)遺跡北側からも溝状土坑が検出されている。今回の調査は、遺跡の立地する台地上での狩猟活動を考察する上で重要である。

引用・参考文献

- 青森県 2013『青森県史 資料編考古2』
- 青森県 2018『青森県史 資料編考古1』
- 青森県教育委員会 1962『青森県ニッ森貝塚発掘調査概要』
- 青森県教育委員会 1973『むつ小川原開発予定地域内埋蔵文化財分布調査報告書』青森県埋蔵文化財調査報告書第1集
- 青森県教育委員会 1983『青森県の中世城跡』青森県文化財調査報告書
- 青森県教育委員会 2005『倉越(2)遺跡・大池館遺跡-国道4号七戸バイパス建設事業に伴う遺跡発掘調査報告-』青森県文化財調査報告書第389集
- 青森県教育委員会 2006『大沢遺跡・寒水遺跡・倉越(2)遺跡Ⅱ・大池館遺跡Ⅱ-国道4号七戸バイパス建設事業に伴う遺跡発掘調査報告書-』青森県文化財調査報告書第417集
- 青森県教育委員会 2007『太田野(2)遺跡・太田野(3)遺跡-国道4号七戸バイパス建設事業に伴う遺跡発掘調査報告-』青森県文化財調査報告書第427集
- 青森県教育委員会 2007『赤平(2)遺跡・赤平(3)遺跡-東北新幹線建設事業に伴う遺跡発掘調査報告-』青森県文化財調査報告書第438集
- 青森県教育委員会 2008『坪毛沢(1)遺跡・坪山(1)遺跡・大坊池遺跡・赤平(1)遺跡・赤平(2)遺跡Ⅱ-東北新幹線建設事業に伴う遺跡発掘調査報告-』青森県文化財調査報告書第449集
- 青森県教育委員会 2008『太田野(2)遺跡Ⅱ・太田(1)遺跡・北野(1)遺跡・北野(2)遺跡-国道4号七戸バイパス建設事業に伴う遺跡発掘調査報告-』青森県文化財調査報告書第455集
- 青森県教育委員会 2009『倉越(2)遺跡Ⅲ・太田(2)遺跡-国道4号七戸バイパス建設事業に伴う遺跡発掘調査報告-』青森県文化財調査報告書第464集
- 青森県教育委員会 2018『夷堂遺跡 塚長根遺跡-国道394号榎林バイパス道路改良事業に伴う遺跡発掘調査報告-』青森県文化財調査報告書第590集
- 青森県教育委員会 2019『後平(1)遺跡 後平(2)遺跡 後平(3)遺跡-一般国道46号天間林道路建設事業に伴う遺跡発掘調査報告-』青森県文化財調査報告書第598集
- 青森県教育委員会 2020『後平(4)遺跡 後平(1)遺跡Ⅱ-一般国道45号天間林道路建設事業に伴う遺跡発掘調査報告-』青森県文化財調査報告書第607集
- 青森県教育委員会 2021『第ノ鼻(1)遺跡-一般国道45号天間林道路建設事業に伴う遺跡発掘調査報告-』青森県文化財調査報告書第616集
- 青森県教育委員会 2021『第ノ鼻(2)遺跡-一般国道45号天間林道路建設事業に伴う遺跡発掘調査報告-』青森県文化財調査報告書第617集
- 青森県教育委員会 2021『青森県遺跡詳細分布調査報告書33』青森県文化財調査報告書第624集
- 青森県教育委員会 2022『舟場向川久保(2)遺跡-一般国道45号天間林道路建設事業に伴う遺跡発掘調査報告-』青森県文化財調査報告書第625集
- 青森県教育委員会 2022『青森県遺跡詳細分布調査報告書34』青森県文化財調査報告書第632集
- 七戸町教育委員会 1993『倉越(2)遺跡』七戸町埋蔵文化財調査報告書第7集
- 七戸町教育委員会 1998『倉越(2)遺跡Ⅱ』七戸町埋蔵文化財調査報告書第23集
- 七戸町教育委員会 1999『坂本館跡』七戸町埋蔵文化財調査報告書第24集
- 七戸町教育委員会 1999『藤森(2)遺跡』七戸町埋蔵文化財調査報告書第25集
- 七戸町教育委員会 2000『藤森(2)遺跡Ⅱ』七戸町埋蔵文化財調査報告書第30集
- 七戸町教育委員会 2002『村内遺跡発掘調査概要報告書2』七戸町埋蔵文化財調査報告書第37集
- 七戸町教育委員会 2003『村内遺跡発掘調査概要報告書3』七戸町埋蔵文化財調査報告書第40集
- 七戸町教育委員会 2007『ニッ森貝塚-範囲確認調査報告書-』七戸町埋蔵文化財調査報告書第71集
- 天間林村 1981『天間林村史』
- 天間林村教育委員会 1996『ニッ森貝塚 平成7年度ニッ森貝塚発掘調査報告書』天間林村文化財調査報告書第4集
- 天間林村教育委員会 1997『ニッ森貝塚 平成8年度ニッ森貝塚発掘調査報告書』天間林村文化財調査報告書第5集
- 天間林村教育委員会 1999『ニッ森貝塚 平成10年度ニッ森貝塚発掘調査報告書6』天間林村文化財調査報告書第6集
- 天間林村教育委員会 2000『村内遺跡発掘調査概要報告書』ニッ森貝塚発掘調査報告書7』天間林村文化財調査報告書第7集
- 東北町教育委員会 1991『内続沢観音館-発掘調査報告書-』東北町埋蔵文化財調査報告書第2集
- 東北町教育委員会 1993『東北町遺跡詳細分布調査報告書』東北町埋蔵文化財調査報告書第3集
- 東北町 1994『東北町史』
- 東北町教育委員会 1998『籾内平(2)遺跡・塔ノ沢山(5)遺跡・空久保(3)遺跡-北部上北地区広域農道整備事業に係る埋蔵文化財発掘調査概要報告書-』東北町埋蔵文化財調査報告書第8集

東北町教育委員会 2000「塔ノ沢山(5)遺跡・藤内平(1)遺跡・千曳下山(2)遺跡—七つ幹線新築工事に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅱ—」

東北町埋蔵文化財調査報告書第11集

東北町教育委員会 2002「内姥沢銀塚館Ⅱ発掘調査報告書」東北町埋蔵文化財調査報告書第12集

東北町教育委員会 2011「外姥沢前平(3)遺跡」東北町埋蔵文化財調査報告書第20集

国立歴史民俗博物館 2008「特定研究」北部日本における文化交流—統縄文期寒川遺跡・木戸脇裏遺跡・森ヶ沢遺跡発掘調査報告<上>—

国立歴史民俗博物館研究報告第143集

国立歴史民俗博物館 2008「特定研究」北部日本における文化交流—統縄文期寒川遺跡・木戸脇裏遺跡・森ヶ沢遺跡発掘調査報告<下>—

国立歴史民俗博物館研究報告第144集

福田友之 2018「東北北部先史文化の考古学」同成社

藤原秀樹 2019「北日本の動物相と隴し穴」考古学ジャーナル No.734

表2 溝状土坑(SV)一覧

図	遺構名	グリッド	確認面	底面	主軸方向	上端(cm)		下端(cm)		深さ(cm)	備考
						長軸	短軸	長軸	短軸		
9	SV01	ⅡI・ⅡJ-25	Ⅲ	Ⅵ~Ⅶ	N-31°-W	330	70	338	11	141	
	SV02	ⅡG・ⅡH-24・25	Ⅲ	Ⅵ~Ⅶ	N-6°-W	353	94	337	10	213	
	SV03	ⅡF・ⅡG-25	Ⅲ	Ⅵ	N-8°-W	287	79	300	6	148	
10	SV04	ⅡC・ⅡD-24	Ⅳ	Ⅵ	N-20°-W	375	90	358	11	140	
	SV05	ⅡB・ⅡC-22	Ⅳ	Ⅵ~Ⅶ	N-1°-E	410	67	402	10	167	
	SV06	ⅡA・ⅡB-19	Ⅲ	Ⅵ~Ⅶ	N-18°-W	397	65	387	11	177	
11	SV07	I Y-18	Ⅲ	Ⅵ~Ⅶ	N-14°-W	374	65	383	6	122	
	SV08	I Y・ⅡA-15	Ⅲ	Ⅵ~Ⅶ	N-12°-E	386	75	385	10	171	
	SV09	ⅡF・ⅡG-18	Ⅲ	Ⅵ~Ⅶ	N-20°-W	360	65	329	11	178	
12	SV10	ⅡH-23	Ⅲ	Ⅵ~Ⅶ	N-4°-W	305	64	286	12	159	縄文土器(図13-1)
	SV11	I U・I V-20	Ⅳ	Ⅵ	N-36°-W	(304)	42	294	10	104	上部削平
	SV12	ⅡC・ⅡD-18	Ⅲ	Ⅵ~Ⅶ	N-5°-E	325	75	292	16	127	
13	SV13	ⅡA-11	Ⅲ	Ⅵ~Ⅶ	N-13°-E	391	74	405	9	157	
	SV14	I V・I W-10・11	Ⅲ	Ⅵ~Ⅶ	N-15°-W	331	91	297	12	131	

表3 土坑(SK)一覧

図	遺構名	グリッド	確認面	底面	主軸方向	上端(cm)		下端(cm)		深さ(cm)	備考
						長軸	短軸	長軸	短軸		
13	SK01	I O-16	Ⅳ	Ⅳ	-	61	(27)	30	(14)	21	

表4 縄文土器観察表

図	遺構名	グリッド	層位	器種	外面		裏面	備考
13-1	SV10	ⅡH-23	I	深鉢・鉢	横位並行沈線(3条)、縦位の弧状文(2条)		ナデ	後期前葉
13-2	遺構外	I R-20 付近	I	深鉢	RL		ナデ	後期前葉

表5 石器観察表

図	遺構名	グリッド	層位	器種	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石材	備考
13-3	遺構外	ⅡL-27 付近	表採	微細	34.0	34.0	7.0	11.0	泥岩	



遺跡全景（西→）

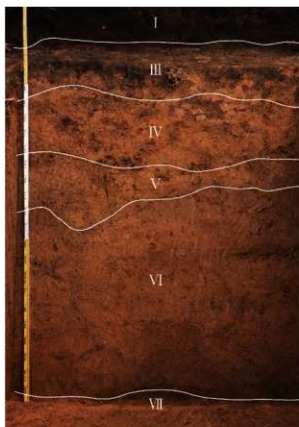


遺跡全景（北→）

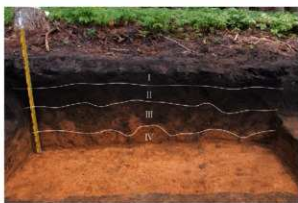
写真1 遺跡全景



調査区全景 (左が北)



基本土層 1 (西→)



基本土層 2 (西→)



出土遺物

写真2 調査区全景・基本土層・出土遺物



SV01 土層断面 (北西→)



SV02 土層断面 (北→)



SV01 完掘状況 (北西→)



SV02 完掘状況 (北→)



SV03 土層断面 (北→)



SV03 完掘状況 (北→)



SV04 土層断面 (北西→)



SV04 完掘状況 (北西→)

写真3 溝状土坑(1)



SV05 土層断面 (北→)



SV06 土層断面 (北西→)



SV07 土層断面 (北西→)



SV08 土層断面 (北→)



SV05 完掘状況 (北→)



SV06 完掘状況 (北西→)



SV07 完掘状況 (北西→)



SV08 完掘状況 (北→)

写真4 溝状土坑(2)



SV09 土層断面 (南東→)



SV10 土層断面 (南→)



SV11 土層断面 (北西→)



SV12 土層断面 (南→)



SV09 完掘状況 (南東→)



SV10 完掘状況 (南→)



SV11 完掘状況 (北西→)



SV12 完掘状況 (北→)

写真5 溝状土坑 (3)



SV13 土層断面 (南→)



SV14 土層断面 (南東→)



SV13 完掘状況 (南→)



SV14 完掘状況 (南東→)



SK01 土層断面 (北西→)



SK01 完掘状況 (北西→)



調査状況 (北→)



調査状況 (北西→)

写真6 溝状土坑(4)・土坑・調査状況

報 告 書 抄 録

ふりがな	はちもりたいかつころくいせき							
書 名	鉢森平(6)遺跡							
副 書 名	国道394号榎林バイパス道路改築事業に伴う遺跡発掘調査報告							
シリーズ名	青森県埋蔵文化財調査報告書							
シリーズ番号	第642集							
編 著 者 名	藤原有希・神康夫							
編 集 機 関	青森県埋蔵文化財調査センター							
所 在 地	〒038-0042 青森県青森市大字新城字天田内152-15 TEL.017-788-5701							
発 行 機 関	青森県教育委員会							
発行年月日	2024年3月15日							
ふりがな	ふりがな	コード		世界測地系 (JGD2011)		調査期間	調査面積	調査原因
所取遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	北 緯	東 経		m ²	
はちもりたいかつころくいせき 鉢森平(6)遺跡	あかほりけふらしろのへまち 青森県七戸町 しほりくまのり 字鉢森平地内	02402	402155	40° 45' 11"	141° 12' 43"	20220510 ～ 20220729	4,309	記録保存調査
所取遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
鉢森平(6)遺跡	狩猟場	縄文時代	溝状土坑 14		縄文土器(後期前葉)・石器		縄文時代に狩猟場として利用されていた。	
		古代以降	土坑 1					
要 約	<p>鉢森平(6)遺跡は、七戸町を流れる二ツ森川左岸の標高約47mの段丘上に立地する。史跡二ツ森貝塚が南東1.5kmにあり、周辺には縄文時代の遺跡が所在する。</p> <p>調査では縄文時代の溝状土坑14基と古代以降の土坑1基を検出した。溝状土坑は台地平坦面の調査区北側、北東-南西方向に分布し、さらに調査区外に広がると推測する。本遺跡で検出された溝状土坑群は、遺跡の立地する台地上での狩猟活動を考察する上で重要である。</p>							

青森県埋蔵文化財調査報告書第642集

鉢 森 平 (6) 遺 跡

—国道394号榎林バイパス道路改築事業に伴う遺跡発掘調査報告—

発行年月日 2024年3月15日
発 行 青森県教育委員会
編 集 青森県埋蔵文化財調査センター
〒038-0042 青森県青森市大字新城字天田内152-15
TEL 017-788-5701 FAX 017-788-5702
印 刷 株式会社 こ が わ
〒030-0142 青森県青森市大字野木字野尻37-91
TEL 017-752-0072 FAX 017-752-0073

この印刷物は300部作成し、印刷経費は1部当たり1,661円(うち県負担748円)です。